

# 幼児教育長期派遣通信 3学期号

発行 令和2年3月18日

三次市立八次小学校 花本 晶子（派遣園：学校法人伊達学園 三次中央幼稚園）

2学期号の通信では、「幼児期の遊びを通した学びがどのように小学校での学習につながっていくのか」ということについてお伝えしました。3学期号では、研修で学んだことから作成したスタートカリキュラムの工夫についてお伝えしたいと思います。



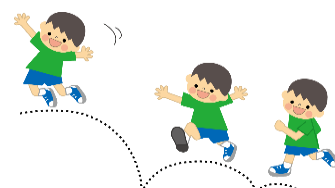
## 1 3学期の研修内容

### (1) 園内研修

年長児クラス補助 幼児教育アドバイザー訪問による幼児理解等の研修・園内行事  
(お茶会・誕生会・参観日・書き方教室・冬の交通安全運動開始式・小学校探検・卒園式等)

### (2) 園外研修

所属校校内研修 三次市幼保小連携協議会 長期派遣研修発表会



## 2 実践を通して



学習活動の工夫

☆生活の中で見つけた疑問を解決したり、子供の思いや願いを実現したりすることで学ぶことへの意欲を高めていく。そのためにも、子供のつぶやきを大切にして、子供の意識の流れに沿った学習活動の計画を立てて実践する。

園・所と同じところや違うところがあるかな？  
どんなことが楽しみかな？



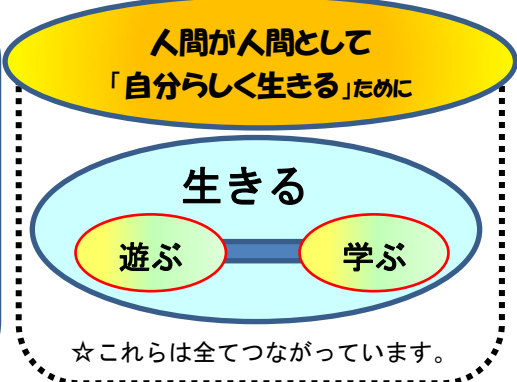
園・所でも同じようにしていたよ。  
広いグラウンドで走るのが楽しみ！

今までの自分自身の実践を振り返ってみると、子供に「丁寧に教える」ことで、できるように「させる」のに一生懸命だったように思います。1年間園児と生活する中で、子供の力を信じ、子供の思いに耳を傾けることの大切さを学びました。子供は、大人が思ってもいない行動をすることがあります。でも、そこには必ず子供の「思い」があります。そんな時、共に考え、悩み、葛藤する中で大人も成長していくこと、つまり大人も子供もそれぞれが「主体」として育ち合う存在であることを心に留めておくことが大切だと思えます。

【児童の姿をよく見取り、そこから学ぶという意識を全教職員がもって教育活動にあたる。】

この一文をスタートカリキュラムの計画に入れました。スタートカリキュラムに限らず、どの学年に対しても大切なことだと感じています。

- ☆子供を「一人の人間としてみること」…本心から子供のすごさ、素晴らしさを見つけること。
- ☆「学び」の連続性と共に「主体としての心を育てる」ことの連続性を考えること。



子供のよさを見つけよう！

できることから始めよう！

# レッツ！「スタートカリキュラム」続編

スタートカリキュラム作成にあたって工夫した具体的な場面を紹介します。

- ① 人間関係づくり
- ② 主体的に学びに向かうことのできる環境
- ③ 園・所との連携



## ① 人間関係づくり



信頼関係



他学年との関わり



友達との関わり

みんなと一緒だと楽しいな！

- ★児童との信頼関係を築くために、教職員が児童にとって環境の一部であることを意識し、言葉・態度・表情に留意する。
- ★友達・人間関係づくりのために、友達と関わる交流活動を行う。余裕をもった時間を確保する。
- ★他学年と一緒に活動する機会を設ける。動線を工夫する。(1・6年生の靴箱を近くに作る。)

## ② 主体的に学びに向かうことのできる環境



期待感を生かす



思いや願い

「本物の勉強」をしている！  
かっこいいなあ。

手紙が書きたいな。  
“あ”ってどうやって書くのかな？

- ★自分で選択して活動ができる時間や場所(教室の一角や廊下のスペース利用)を用意する。
- ★自分でできるという実感をもつために、幼児期に親しんだ遊びや活動を取り入れ、経験を生かす工夫をする。
- ★思いや願いをもち、夢中になって学ぶために、グループやクラス全体で話をする機会を設け、そこを学習の起点として学習活動を組み立てる。
- ★児童の学習に対する期待感を生かし、自覚的な学びにつなげる。

## ③ 園・所との連携



研修に参加



リズムジャンプ

### 子供も先生もわくわくするスタートに！

実際に園児の様子を見て体験もできたのでイメージがわかりました！



交流活動



リズム遊び

- ★小学校の研修に幼稚園の先生と参加⇒卒園児の成長の様子を見てもらえる。また、目指す方向について一緒に考えることができる。
- ★5年生が年間を通して交流活動を行っている。よりよくするために、活動後のふり返りを大切にする。
- ★園・所での取組から、小学校でもできそうなことを学習内容と照らし合わせて取り入れる。園・所に行って園児の様子を見たり、一緒に体験したりする。

## 3 まとめ

幼児教育派遣研修を通して、幼稚園で実際に子供たち・先生方と過ごしたことは、本当に貴重な経験となりました。一緒に空間で同じ時間を過ごしたからこそ、園の先生方の子供への関わり方や理解の仕方など、感じ取ることができたのだと思います。今まで小学校側からしか見えていなかったものに新たな視点を与えていただきました。例えば、大人がどのように「教えるか」だけではなく、子供達がどのように「育っているか」に目を向ける必要があること、決まっていることだからと押し付けるのではなく、一緒に考えていく中で、子供に知ってほしいことを伝えていくことなどです。

何かを理解するためには、その何かに「なってみる」ことが大切で、それは子供理解にも通じます。保育・教育に対しても「こういうものだ」と決めつけて見ることなく、常に「これでいいのかな。」と問い続けながら、共に歩んでいきたいと思っています。

### 乳幼児教育支援センターから

幼児を理解することが保育の出発点と言われています。言語に現れるものだけでなく、子供の内面を理解するようにすることは教師として大切なことです。スタートカリキュラムではそれぞれの経験や幼児期の教育を考慮した指導が求められます。「子供の姿が出发点！」子供の姿に立ち返りましょう。

花本先生が研修で学んだことを生かして、今後さらにより実践を積まれることを期待しています。